

令和7年度福智町日韓交流事業 帰国報告会 研修を感じた子どもたちの成長

福智町日韓交流事業 帰国報告会が11月30日にふくちのちで行われました。研修に参加した高校生7人は、日韓交流事業での研修を通じて得た貴重な学びや成長を来場者約60人に発表。コーディネーター兼講師の北先生は「研修で身に付けた自己実現と挑戦し続ける力を生かしてこれからも頑張ってほしい」と激励を送りました。



↑報告会終了後、記念撮影では緊張から解放され、安堵した表情の研修生たち。

↓トウモロコシでできたエコ風船を飛ばし、見送った1~3年生27人の児童たち。



弁城小学校で人権教室 学んだ思いやりの心を風船にのせて

田川人権擁護委員協議会主催の「人権教室」が、11月28日に弁城小学校で開かれました。参加した3年生は、人権擁護委員による講話やかるたによる授業で相手を思う心を学習。最後に1~3年生で、育てたひまわりの種と言葉を添えたエコ風船を大空へと放ち、新たな地で思いやりが芽生えることを祈りました。

↓最優秀賞の河原さん(前列中央)は、2月15日に地域交流センターで行われる田川大会に出場します。



第20回 福智町少年の主張大会 想いを自分の言葉に乗せ表現

青少年育成町民会議主催の「少年の主張大会」が12月21日に地域交流センターで開かれました。各校代表の児童生徒が将来の夢や社会への意見を発表した結果、「冒険とチャレンジは今ここにしかない」という演題で挑戦の大切さを訴えた市場小6年生の河原昂さんが最優秀賞を受賞。他の発表者にも優秀賞が贈られ、会場は割れんばかりの拍手に包まれていました。

↓悲惨な歴史から目をそらさず、白石さんの話に真剣なまなざしを向ける児童たち。



賢くお塩使う術学んだスマソル料理教室

福岡県が推進する減塩を学ぶ「スマソル料理教室」が12月15日に金田保健センターで行われました。参加した19人は、町の食進会メンバーや管理栄養士、保健師と一緒に「エビチリ卵炒め」などを調理。完成後は全員で試食を行い「少量の塩でも、工夫すれば美味しい料理を作れる」ということを身をもって学んでいました。



↑協力しながら調理を進めた参加者たち。今回は食塩1.8 gの料理に挑戦。

伊方小「方城大非常」授業 命や助け合いの大切さ学んだ特別授業

日本最大級の炭鉱爆発事故「方城大非常」を学ぶ特別授業が、事故発生日と同じ12月15日に伊方小で行われました。事故で祖父を失った白石紀文さんが登壇し当時の状況を紙芝居などで説明。参加した6年生34人は、自分たちが暮らす地域で起きた悲しい歴史を通して命の尊さや助け合うことの大切さを学んでいました。

VC FUKUOKA ヒルクライムチャレンジ in 福智町 福智の魅力を巡るサイクリングイベント

VC FUKUOKA の選手たちと一緒にサイクリングするファンライドイベントが12月7日に初めて福智町で行われました。世代を問わず楽しめる大人気のこの企画に県内外から約60人が参加。町の自然豊かな景観を巡る約16kmのコースを走り、ゴール後には「きつかったけど楽しかった」と仲間と走る楽しさを満喫しました。



↑ふれあい交流会館から福智山登山口までの過酷なコースを完走した参加者たち。

↓もぎたての香りに包まれながら、みんなの笑顔がはじけたレモン収穫体験。



あがのレモン収穫祭 檸檬の香りと美味しさ漂う収穫祭

耕作放棄地を活用し無農薬で栽培したレモンを収穫する「あがのレモン収穫祭」が12月7日に行われました。当日は430人が参加し、レモンの収穫体験や、レモン雑貨の販売など、胸が躍る企画を満喫。実行委員長の平野さんは「収穫祭を通じて、これからもあがのレモンの魅力を広めていきたい」と今後の活動に目を輝かせました。